

# 一般の部 入選 (伊賀市)

## 《有馬 朗人 選》

猫応へしことも百物語かな 桐ヶ丘 坂石佳音

## 《稲畑 汀子 選》

そこまでと言うて戻りし汗の顔

上野丸之内 藤井充子

草を引く九十歳にして健に

平田 中森皎月

## 《茨木 和生 選》

蒼朮を焚く芭蕉翁記念館

上野丸之内 藤井充子

## 《岡崎 光魚 選》

白頭鷺青き氷河を翼下にす

三田 西田尚子

雉飯を食べ暑氣払ふ笠置茶屋

緑ヶ丘南町 谷本まさ子

遺愛なる陶枕藍の唐子の絵

上野車坂町 海保りつ子

御典医の百薬の書を曝しけり

上野玄蕃町 横田信子

日盛りを来て荷くづれの如く座す

森寺 橋本千代子

伏流は隠り世の音螢飛ぶ

西明寺 永井みよ

生家跡狐狸棲むほどに芒枯る

緑ヶ丘西町 川浪玲子

夕立にずぶ濡れ尾さばきもせず馬は

緑ヶ丘南町 松本ちい

## 《鍵和田袖子 選》

風神と火神睦みて畦を焼く

三田 西田 誠

流れゆく雲より白き綿を摘む

森寺 橋本米子

教卓に柿を並べて子規講ず

上野桑町 福沢義男

## 《倉田 紘文 選》

拓本の墨あと涼し石佛

緑ヶ丘東町 湯矢澄子

警笛を交し港の霧深し

馬場 山本松柏

夏瘦せて農守る人の肩尖る

下神戸 滝川登美子

閉店のちらしの湿り梅雨最中

馬田 山本志賀

## 《西村 和子 選》

行きも帰りもじやがいの花白し

西山 奥谷かち子

カヌー担ひ父と子の来る葦間かな

三田 土井陽代

## 《長谷川 權 選》

ポケットのものうつしかへ更衣

木興町 森井杏雨

## 《星野 椿 選》

扇手に異国に住める子の話

上野丸之内 藤井充子

山門の出入りは自由蓮の花

四十九町 井上英子

句作りは心の支へ椿寿の忌

山畑 北村みち

借景に城ある暮し稲の花

山畑 寺尾 照

咲きこぼれ継ぐ凌霄の花すだれ

坂之下 松井和子

葱坊主活けて生涯百姓に

西明寺 北田サカエ

句の縁春惜しみゆく旅なりし

上野丸之内 奥中和子

## 《皆川 盤水 選》

城ひとつ置いて笑へる伊賀の山

甲野 橋本眞佐子

海霧晴れてますほの小貝拾いけり

緑ヶ丘本町 中森文子

青葉木菟修業の僧が足袋濯ぐ

上野桑町 石原京子

曾良つれし芭蕉の像や柳の芽

上野赤坂町 中川昌子

鈴鹿嶺へ丈を揃へて稲の花

柘植町 橋本理恵

伊賀谷の闇深まりて牛蛙

山畑 山下久美

芭蕉てふ地酒酌みたり翁の忌

柘植町 富山文夫

一時を蛭つき来る橋の上

柘植町 外山依子

## 《宮田 正和 選》

秋澄めり運河に映る橋の裏

山出 菊山時子

桐の花田ごとに朝の人の声

上野車坂町 森中香代子

藻塩焼く軒へまつすぐ夏つばめ

上野丸之内 竹岡英子

少女らの語尾伸ばす癖ソーダ水

柘植町 桑原智代美

少年の昼告げに来る夏休み

下柘植 松本慶子

炎天の母菅笠で通しけり

馬場 福田容子

みづうみのほとりを飛べり燕の子

上野忍町 河口良子

## 《森 澄雄 選》

巢立ちゆく燕しばらく低翔す

朝屋 福嶋スミ

蚊遣して芭蕉生家を守りゐる

上野西大手町 中坂順子

歩を止めて芭蕉生家の枇杷たわわ

高畑 濱田昌子

貝おほひ納めし宮に蟬しぐれ

岩倉 西村八洲子

# テーマの部 入選 (伊賀市)

## 《片山由美子 選》

朝の森郭公の声遠からず

緑ヶ丘西町 豊田禮子

森が見え我家見え来る帰省かな

柘植町 富山文夫

